

1. 科目名 (単位数)	幼児理解 (2単位)	3. 科目番号	SSOT2408 SCOT2408 SJMP2312 SJMP2212
2. 授業担当教員	吉川 晴美		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	幼児期の保育は、幼児一人ひとりの発達の特徴に応じ、発達の課題に即した指導を行うことが重要である。本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、実践事例（文献、映像）等を用いて、幼児の生活の実際とその理解、具体的な指導のとらえと意味、幼児期の保育における環境のとらえ方、評価の在り方、幼小の連携、並びに行事について学ぶ。		
8. 学習目標	以下の事項について学び、幼児の主体性を育てる保育を理解し、実践するための基礎を習得することをテーマとし、学習の到達目標とする。 1. 保育とは何か、保育における環境の在り方 2. 子どもを見る視点、保育を見る視点 3. 幼児期の発達の特徴 4. 子どもの行動の意味と記録の方法 5. 発達やかかわりに配慮を必要とする子どもへのかかわり方 保護者対応・支援		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	様々な場面における幼児の姿や行動の観察、具体的な幼児とのかかわりについて記録を行う。 上記記録から事例（エピソード）を抽出し考察を行う。小テストも適宜行う		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 文部科学省『幼児理解に基づいた評価』2019 慶應義塾大学出版会『人間関係の理解と心理臨床』2017 【参考書】 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017 文部科学省『幼保連携型認定こども園・保育要領』フレーベル館 2017		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1. 子ども（幼児）の内面と行動について、その基本的事項（意味、発達の特徴、環境とのかかわり）を理解し、説明できるか。 2. 保育状況における様々な幼児の姿の理解（深まりと広がり）の方法と、保育者としての適切なかかわり方について具体的かつ明瞭に説明できるか。 ○評定の方法 1. 授業への態度、グループワークで共同する態度 総合点の30%、2. 提出物（小テスト、レポート）総合点の70%		
12. 受講生への メッセージ	子ども、幼児とはなにか、その内面を理解し、保育者としてどのようにかわるか、具体的な場面を通して、共に探求し、考えていきましょう		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業概要、授業計画、保育とは	事前学習	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の第1章を読んでくる。
		事後学習	シラバス全体に目を通し、今後の進行を確認しておく
第2回	保育とは	事前学習	教科書該当箇所を読み、事前配布した資料に記入してくる。
		事後学習	保育とは何か、保育者としての子どもの理解とはなにかを学び、保育者としての基本的な態度、在り方に気づく。
第3回	子どもをとらえる視点と保育	事前学習	事前に配布した資料に目を通しておく
		事後学習	子どものとらえ方について確認し、自分のとらえ方をひろげ保育者としての基本的なあり方を理解する。
第4回	子どもの発達とはなにか	事前学習	教科書、配布資料を読み、発達についてイメージしてくる。
		事後学習	保育者として、発達の過程を理解する重要性・意義をとらえなおす。
第5回	子どもの発達理解1 —幼児期前半の発達—	事前学習	教科書、配布資料を読み、幼児期前半の子どもの発達の特徴をまとめてくる。
		事後学習	事例検討を通して、発達をふまえた適切な援助を振り返り、自分の考えを広げる。
第6回	子どもの発達理解2 —幼児期後半の発達—	事前学習	教科書、配布資料を読み、幼児期前半の子どもの発達の特徴をまとめてくる。
		事後学習	事例検討を通して、発達をふまえた適切な援助を振り返り、自分の考えを広げる。

第7回	子ども理解の方法1 —観察と記録の取り方	事前学習	配布資料を読み、該当箇所に記入してくる。
		事後学習	観察法についてまとめる。
第8回	子ども理解の方法2 —ロールプレイによる理解	事前学習	具体的な場面における子どもの姿をイメージしてくる。
		事後学習	授業で行ったロールプレイの体験と観察の記録から、集団状況における具体的な子どもの姿、行動を理解し、考察する。
第9回	集団状況における子どもの立場からの理解	事前学習	保育場面（集団状況）における子どもの立場、気持ちをイメージしてくる。
		事後学習	ビデオ資料を通して子どもの様子と活動経過を記録したものから、個と集団の関係における子どもの側から見たその内的世界と外的世界をまとめる。
第10回	子ども同士・保育者とのかかわり、個と集団とのかかわりからの理解 —グループワーク・発表による理解	事前学習	保育場面（集団状況）における、子ども同士、保育者とのかかわりについてイメージしてくる。
		事後学習	グループディスカッションを通し、集団と個の関係、子ども同士、保育者とのかかわりについてまとめる。
第11回	子ども理解と援助1 —気になる子どもの事例から	事前学習	保育場面における気になる子どもと行為の意図についてイメージしてくる。
		事後学習	教科書、配布資料をもとに、気になる子どもの行動を、幼児のつまずきという点から理解し、個と集団の関係、周りの幼児やモノとの関係をふまえた援助の仕方をまとめる。
第12回	子ども理解と援助2 —特別に配慮が必要な子どもの事例から	事前学習	障がいや特別に配慮が必要な子ども
		事後学習	ビデオ資料の事例検討から、発達障がいの問題とその背景について学ぶ、また、特に配慮が必要な点について、周りの幼児との関係をふまえた環境の作り方、援助の仕方を学び、保育者の適切なかかわりについてまとめる。
第13回	子ども理解と援助3 —愛着・虐待と子どものサイン	事前学習	配布資料をもとに、幼児のつまずきと背景、愛着の意味、虐待についての基礎的知識を確認してくる。
		事後学習	具体的事例から、子どものつまずきとサインをどう受けとめ、カウンセリングマインドで応ずるかについてまとめる。
第14回	保育の環境と援助 —保護者・家族理解と連携	事前学習	配布資料、具体的事例から、幼児期に起こる子どものつまずきにたいする親の気持ち、子どもとの関係について考えてくる。
		事後学習	家族の関係性と子どもをめぐるつまずきの問題とその背景・状況に応じた援助、連携についてまとめる。
第15回	レポート課題によるまとめを行う	事前学習	今まで学習した内容を確認してくる。
		事後学習	学習内容を整理し、子ども理解の知識と方法と実践をつなげて自分のものとする。